

「ゴジラはどうして東京湾にしか現れないのか」と関係者に質問すると「他の都市ではゴジラが壊すものがないからだ」ということである。なるほど、ゴジラが松浦市に現れたら、市役所をひと足で踏みつぶして博多湾へ向かうだろう。そして、博多を破壊すると、やはり東京湾へ向かうのか。

昔、東宝の特撮怪獣映画に「ラドン」があった。ラドンは西海橋を破壊したし、阿蘇山ま

でも飛んで行ったのではないか。「ラドン」の佐世保の炭鉱住宅の描写はリアルであった。シリーズの後半のゴジラは福岡や阿蘇も破壊したらしい

が、残念ながら見ていない。ゴジラは四国には現れていない。

ゴジラが恐れるものが四国には

に南太平洋の水爆実験で被爆した第五福竜丸の悲劇がリアルタイムで重なっていた。千葉大教授神里達博氏が朝日新聞で述べた言葉である。

「ゴジラ」は1954年11月3日に公開された。監督の本多猪四郎氏は取材で「戦後の暗い

3日に公開された。監督の本多猪四郎氏は取材で「戦後の暗い

まだに鮮明に記憶されているの

難しいのかもしれない。「ゴジラ」が撮影された鳥羽の湾も訪ねたが、「ゴジラはこの海から現れたのか」となんだか懐かしい気になったことを記憶してい

しかし、9歳で見た映画がいまだに鮮明に記憶されているの

まだに鮮明に記憶されているの

## ゴジラ誕生の時代

あるのか。

わたしが書きたい脚本に「ゴジラが誕生した日」がある。「初代ゴジラが作られた1954年

は大空襲や原子爆弾の攻撃により、国土が焦土となった戦争から9年しかたつておらず、さら

社会をくたく破壊、無秩序に陥らせる和製キングゴングを作り

たかかった」という旨のことを語っている。わたしも「ゴジラが誕生した日」では、その時代の

映画関係者のゴジラを誕生させるまでを描きたいが、なにかと

だから、映画の力はやはりすごい。「いま何時や」「5時ら」。

こんなタジャレを言って遊んでいた。近頃、こんな映画があるのだろうか。大ヒットした「君の名は」も往年の「君の名は」をほつふつとさせるが、内容は

のた。ここまです話になると、今更足を運ぶのも気おくれがする。

まったく違うらしい。どうも映画館へ足を運ぶ気になれず、見た人の印象を聞くだけなのでなんとも言えない。

ただ、映画の打ち合わせで話題になるのは「若い人が見るかどうか」である。若い人が見る映画はヒットするそうである。それはそうだ、年寄りには映画館まで足を運ばない。「シン・ゴジラ」はわが家の飲み会でチームの連中が話題にしていたので「見てみるか」と家内と相談したが、そのままになってしまった。ここまです話になると、今更足を運ぶのも気おくれがする。

「感傷に浸って死ねとセミの声」遊園

（松浦市出身）